☺【このページは、子育て中の市民の方にお願いし、作成していただきました。】☺

育休とーたんのはなし 後編

僕は平成27年秋生まれの男の子の父です。
１年間の育休を取りました。「男性が長期育休?」と驚かれることが多い世の中ですが、そんな僕が感じたことをお伝えします。

――母親にかなわないと思ったことは？

おなかで赤ちゃんを育てて産んだこと。生まれてからのお世話は、父親でも努力次第でできますが、産むまでは母親だけができる命懸けの奇跡です。それだけで父親は絶対に頭があがりません。

――父親がずっとそばにいる影響はあった？

根拠はありませんが、子どもの気持ちの芯が安定している気がします。気持ちの切り替えも上手だと思います。まあ、性格なだけかも。

――父親ならではの育児のコツは？

子どものすることにイラついたときは、バカ男子だった自分を思い出します。すると「僕もああだったなあ」と気持ちに寄り添えます。威厳・プライド・体裁・正しさは子育てには邪魔なだけでした。一緒にバカやって、今だけの恥を楽しんでます（笑）。

――父親ならではの育児の悩みは？

マイノリティなこと。同じ目線のパパ友は少なく、ママ友の輪にも入りづらい。まだまだ世間は父親を「サポート」としてしか見ていなくて、子育てコミュニティの外なんです。それは「ママは助かるね」「パパなのにえらいね」という悪気ない一言や「ママのための～」というセミナーだらけの日常からも感じました。外出すれば、授乳室が女性専用で使えず、寒空の下でミルクを飲ませたり、民間の育児サロンは女性専用で門前払いだったり。乳幼児を抱える父子家庭には頭が下がります。

――育休とれる会社ってどんな会社？

昨今の働き方改革の波に乗って、介護や育児に携わる人への在宅勤務や休暇制度が強化されました。きっと運も良かったです。所属部署も推進する側のため、認めてくれましたし。それでも、まさかと驚かれました。制度が整っても、意識まではなかなか変わりません。

――男性はみんな長期育休とってるの？

いいえ。取ってもほとんどが数日、長くても２ヶ月ぐらい。男性社員の育休１年間は今も例がありません。育休中の自分がイメージできないようで、最初から選択肢にないようです。育休明けに復職研修というものがありましたが、男性は私一人でした。

――育休をとるために何かした？

チームリーダーだったので、妊娠がわかり育休を取ると決めてから、引継資料、不在期間の段取り、水面下のネゴなど、何ヶ月もかけて、お前が抜けたらどうする？に対する回答を準備しました。信頼関係を築いて休んだので、復帰もスムーズでした。よく「育休とれるなんて、いい会社！」と羨ましがられますが、残念ながら現状は簡単ではありません。取るという強い意思と、取るための努力は必要で、それは男女で変わらないと思います。

――復帰してからはどんな感じ？

仕事と育児と家事の三つ巴は大変です。これらを回すため、仕事のムダ撲滅には率先して取り組むようにしています。育休や時短の当事者の問題意識から見えてくるものもあり、わりと楽しんでいます。ぶつかることも多いですが、少しでも効率があがるとうれしいです。

育休の１年間、未熟な子どもに向き合うことは、そのまま未熟な自分と向き合うことでした。これは長い育休がなければ経験できなかったと思います。それを乗り越えられたかはわかりませんが、これからますます大変になるだろう子育てが楽しみなことは確かですね。

前回に続き「育休とーたんのはなし」その２を掲載いたしました。